

TOMATO PROJECT

～トマトの素晴らしさをもっと広めるために～



目的 トマトの良さを知ってもらう → トマトを食べようとするきっかけに知ってもらう

タキイ種苗 「2019年度 野菜と家庭菜園 に関する調査」 より

大人が好きな野菜 Top10

2018年 ※複数回答、トップ10

1位 トマト 65.8%

2019年 ※複数回答、トップ10

1位 トマト 68.2%

子どもが好きな野菜 Top10

2019年 ※複数回答、トップ10

1位 トマト 53.1%

子どもが嫌いな野菜 Top10

2019年 ※複数回答、トップ10

1位 ゴーヤ 39.6%

2位 ビーマン 31.4%

3位 春菊 30.4%

7位 トマト 23.2%

子供に食べさせるのに苦労した野菜

※複数回答

1位 ビーマン 17.0%

2位 トマト 14.4%

現在の状況

⇒トマトは、
大人・子ども問わず
好かれている一方、
**子どもが
嫌いになりがちな野菜**
でもある。
また、野菜について、
**野菜の料理法に
困っている人がいる**
と分かる。



- ・子どもに野菜をもっと摂取させるために取り組みたいこと
 - 1位 もっと野菜を使った料理を作る（作ってもらう）ようにしたい
 - 2位 食べやすさや調理のしやすい野菜を選んで食べさせるようにしたい
 - 3位 調理法を工夫して、野菜を食べさせるようにしたい ...など
- ・野菜を十分に取れていない理由
 - 1位 野菜は量をたくさん食べられないから
 - 2位 野菜の値段が高いから
 - 3位 日頃の食事で野菜を使った料理を食べる機会が少ないから
 - ...4位 野菜をたくさん食べる料理方法がよくわからないから
 - ...7位 どんな野菜をもっと食べたらよいか、よくわからないから ...など

- ・トマトの好き嫌いは分かれている
- ・野菜の調理法に困っている人が多い



調理法次第で、
トマトはもっと食べてもらえる
ことが可能？

- 案
- ・ トマトの栄養をできるだけ多く摂れる調理法
 - ・ 簡単に手早くできる調理法 など

プロジェクト計画

- ・ ミニトマトのベランダ栽培（～夏） ⇒済
- ・ 祖父に話を聞く ⇒済
- ⇒育てる上で何か課題は無いかな
- ・ 調べ学習 ⇒続行中
- ⇒トマトの栄養素、料理など

アクションプラン

トマトの魅力を伝えるための
パンフレット等を作成する

パンフレットに載せる内容

- ・ トマトの栄養素
- ・ 様々なトマトの種類
- ・ レシピ
～様々な食材との組み合わせを、
調理時間、シチュエーションなどで
分類して紹介



Dance で Earth を Happy に!!

～ダンスで地域活性化～

1. 「プロジェクトの目的」

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、いままでの、「あたりまえの幸せ」が私たちの生活から失われ続けている。そこで、体のディスタンスを取りつつ、心のディスタンスは取らずに、多くの人々を幸せにしたいと考えた。また、新型コロナウイルスが終息した後の世界を、より幸せにするものは、心の繋がりであると、私は考える。あらゆる壁を越えて、ダンスで人と人との心を繋ぎ、コロナ禍でも多くの人々に、幸せを与えたい。

2. 「プロジェクトの内容」

このプロジェクトでは、2つのことを行った。1つ目は、「ソーシャルディスタンスフォークダンス」だ。これは、私たちの学校の伝統であるフォークダンスを、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、改良したものだ。振り付けは、ソーシャルディスタンス確保と、全校生徒が踊って楽しいと感じられることの2点を重視して作成した。全校生徒を2グループに分けて円を作り、オクラホマミキサーの音楽に合わせて、その円が一周するまで行った。2つ目は、「『Be smile 鬼花火』での鬼踊り」だ。Be smile 鬼花火とは、今年、登別市内の小中高校で行われた、市制50周年の企画だ。私は、その企画で、登別市の伝統的な踊りである、「鬼踊り」を、来場者にレクチャーした。振り付けにソーシャルディスタンスをとる要素も盛り込み、呼びかけをしなくても来場者間の距離を確保できるようにした。会場の雰囲気壊さずに新型コロナウイルス感染予防対策を行うことが出来た。

3. 「プロジェクトを通して学んだこと」

私は、このプロジェクトを通して、「協力して頂くことの大切さ」と、「100%の理解を得ることの難しさ」を学んだ。私がプロジェクトの中で関わってきた方々は、私の意見に賛同し、協力して下さった。これは、とてもありがたい。しかし、実際は、私のやりたいことに周りを巻き込んだだけでは無かっただろうか。協力者を幸せにすることも、このプロジェクトの目的だ。そして、協力者の幸せとは、私の探究を、協力者の自分事探究にすることであると考える。協力者の方々は、私のプロジェクトが進むにつれて、より深く私の探究の意味を理解して下さった。そして、私の探究が協力者の自分事になっていくのを肌で感じた。世の中には、私の探究の意味が分からない人が沢山いるだろう。そんな人たちにも、自分事として私の探究に協力してほしい。協力者の方々との経験から、それが実現する可能性はあると確信した。「協力者の自分事」を軸に Dance で Earth を Happy にしていきたい。

4. 「今後の課題」

Dance で登別の一部を Happy にすることはできたが、まだ Earth を Happy にできていない。特に今回の鬼踊りでは、会場にいたすべての人々に踊っていただけたわけではなかった。踊らない人々は、恥ずかしいから踊らないのか。あるいは、ダンスに対して、何か深い恨みを抱いているのか。まずは、踊らない理由を明確にしたい。また、様々な国の人たちとダンスで関わるプロジェクトを企画しているため、本当に Dance で Earth は Happy できるのかを追求していく予定だ。



③実施内容

1. ソーシャルダンス
フォークダンス
2. Besmile鬼花火での
鬼踊り

①目的

コロナ禍でも、世界中に
幸せを与えること

②きっかけ

ダンスが好きだから♡

④関わった方々

- ③ - 1 学校の先生方
- ③ - 2 市役所の方々と
関わらせて頂いた

DanceでEarthをHappyに!!

⑤学んだこと

協力して頂くことの大切さ
と
100%の理解を得ること
の難しさ



⑥今後の予定

高齢者施設での
ダンスレクリエーション

